

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3171100104		
法人名	株式会社兵庫福祉保健サービス		
事業所名	グループホーム松風の郷浦富 I 階		
所在地	鳥取県岩美郡岩美町浦富1418-2		
自己評価作成日		評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.wam.go.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	
所在地	
訪問調査日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>経営理念の「ゆっくり 一緒に 楽しく」を基に、グループホーム松風の郷 浦富の理念として「あせらない 同じ目線で 笑いある」を掲げ、家族様や地域の方の行事参加等、繋がりを大切に職員一同アットホームな施設を目指し、一人一人のペースに合わせ楽しく過ごせるよう支援に努めています。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者や職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3171100112		
法人名	株式会社兵庫福祉保健サービス		
事業所名	グループホーム松風の郷 東浜		
所在地	鳥取県岩美郡岩美町陸上494		
自己評価作成日	令和6年2月5日	評価結果市町村受理日	令和6年3月21日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.wam.go.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いなば社会福祉評価サービス
所在地	鳥取市湖山町東2丁目164番地
訪問調査日	令和6年2月20日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

東浜駅前に建つ古民家風な建物がグループホーム松風の郷東浜です。山陰近畿自動車道岩美道路の開通により施設への交通の便も良くなりご家族の来所時も喜ばれています。夏の東浜海岸の海の色は最高で撮り鉄の絶景スポットにもなっています。また、天気の良い日には散歩に出掛け潮風を感じたり海を眺めたりと穏やかに過ごされながら利用者様とアットホームな暮らしを目指し、日々の生活の中で「ゆっくり、一緒に、楽しく」の理念のもと笑顔で元気に過ごしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

世界ジオパークにも認定された美しい海岸線に沿ったまちなみに位置し、のどかで優しい雰囲気を訪れる人々を包み込みます。玄関を入るとすぐに「ゆっくり 一緒に 楽しく」の立派な書が出迎えてくれます。古民家を活用した施設ですが、どこも清潔に保たれ、動線に配慮した工夫がされています。管理者と職員は、理念をもとに気持ちを一つにし、生き生きとして日々のケアに取り組まれています。利用者のお話をお聞きするのがとても楽しい、と言われた職員の言葉でわかるように、常に利用者の立場に立ったサービスの提供に努められているのがよくわかりました。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と <input type="radio"/> 2. 家族の2/3くらいと <input type="radio"/> 3. 家族の1/3くらいと <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度ある <input type="radio"/> 3. たまにある <input type="radio"/> 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度 <input type="radio"/> 3. たまに <input type="radio"/> 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている <input type="radio"/> 2. 少しずつ増えている <input type="radio"/> 3. あまり増えていない <input type="radio"/> 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> 2. 職員の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 職員の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> 2. 家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	あげられている理念と東浜独自の理念を常に管理者と職員で共有し意識しながら支援に努めている。	玄関に掲げられている理念は、立派な書で書かれ、職員だけでなく、訪れる人誰もが目にする事ができる。管理者は、忙しい時こそ職員とともに理念を確認し、その実践に活かしている。東浜独自の理念も、職員全員で作成している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍も緩和され、海岸清掃や防災訓練には参加していたが運動会や敬老会等の地域行事は実施されていない。	コロナ禍で地域のイベントが行われていないが、日常的に近所の方々との交流を行っている。認知症についての相談や問い合わせを受けることもある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の人々との交流機会が少なく現状今も活かしていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナウイルス感染予防のため運営推進会議の開催が中止となり、以降、開催できていない。	コロナ禍で、しばらく運営推進会議の開催を見送っていたが、来月より再開する予定である。民生委員や町の担当者、家族の方とは、個別に連絡を取り合っている。	運営推進会議は、事業所と地域をつなぐ大切な接点です。書面やZOOM等を利用したり、換気をした上での対面会議など、工夫して行うことを検討してはいかがでしょうか。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	介護相談員の訪問は休止となっているが、2か月に一回の市町村担当者と面談しサービスの取り組みを伝え連携をとり協力関係が築けるよう取り組んでいる。	町の担当者は、利用者の状況確認のため2か月に一度来所され、適宜情報交換を行っている。包括支援センターからは、入所に関しての問い合わせがあるなど、日頃から協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的な研修や自己チェックにより禁止の対象となる行為への理解を深め、常に自身を顧みる事を心がけ委員会などにて事例を共有し対応を協議することで介護者、利用者様ともに負担のない関係を築けるよう取り組んでいる。	身体拘束廃止委員会を立ち上げ、3か月に一度職員全員が身体拘束をしないケアについて、正しく学んでいる。またWEB上にて、外部講師による研修も積極的に受講している。外出されようとする利用者には、無理強いせず、優しく寄り添っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	定期的に研修を行い、職員の言葉使いや利用者様への姿勢態度など虐待が見過ごされる事がない様お互いに声掛けしながら虐待防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	定期的に成年後見制度の施設内研修を行い、個々の状況により活動できるよう支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際締結や解約について丁寧に説明し不安や疑問を尋ねている。また契約書内に大きく連絡先を提示し、いつでも連絡していただけるよう伝えている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族様の来訪時に職員が声をかけ、日ごろの様子を伝え意見や要望を伺い、遠方の家族様には電話で様子を伝え、それらを共有し運営に反映している。また、月1回生活の様子や往診結果等のお知らせのお便りを送付している。	家族の来所時には、積極的に話しかけ、利用者の様子等を伝えている。毎月様子がわかる写真を添えた通信を送付し、家族から大変喜ばれていることが、今回のアンケート結果からもうかがえた。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	相談窓口を周知し、定期的な面談やアンケートなどを行い、職員の意見に耳を傾け、必要な対応があれば随時対応を行っている。	管理者との面談だけでなく、本社の統轄が来所され、職員一人一人の意見を聞く体制が整えられている。統轄は、職員が緊張することなく、日頃の思いや意見を話せるように努めている。職員はその面談を楽しみにされていた。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は職場や職員個々の状況を把握することに努め、目標管理シートを使用し各自の目標を定め、それに向かってやりがいをもって働けるよう環境整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員個々の現場を把握し、適切な時期に必要な研修や資格試験を受ける機会を確保し、協力しあって全体的なスキルアップを目指す風土を作っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の会議への参加や電話連絡などにより異業種、同業他社とのかかわりの中で、自施設の果たす役割を意識し、地域の未来を考えたサービスを提供するためサービスの質の向上に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	家族様、本人様の生活歴を尊重し意向に沿った支援内容についての説明を行い安心していただけるよう取り組んでいる。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前より本人様、家族様に施設見学して頂き希望や不安や思いを考慮しながら寄り添ったサービスを提供できるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人様の現状に応じたサービスの利用と家族様の思いに寄り添ったサービスが受けられるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は理念と方針を頭に置きながら利用者様と生活空間を共有し共に寄り添うことで信頼関係の構築に努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月家族様へ生活の様子ができるよう写真と往診結果等を郵送し、近況をお伝えしている。必要に応じて電話連絡にて情報共有している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者様の生活歴を尊重しながら知人や家族様面会の機会を設け、面会が困難な利用者様は手紙や電話で連絡できるよう支援している。また、機会を見ながら屋外へ散歩に出たり初詣に隣の神社へ参拝出来るよう支援に努めている。	馴染みの人に絵手紙を送ったり、電話で話をするなどの支援が行われている。近所の友人、知人が訪ねて来られることもある。ドライブのついでに、懐かしい場所へお花見に行くなど、関係が途切れない支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様が一人にならないよう時には席を移動し一緒に活動が出来て交流が取れるよう職員も間に入って支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も情報交換や相談を聞くなどこれまでの関係性を継続しながら支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	アセスメントや家族様からの情報収集、本人様の思いや希望を聞きながら日ごろの様子などを把握し本人様に合わせて検討している。	認知症なのでコミュニケーションが取れないと決めつけることなく、とにかく「聴く」に徹している。利用者には基本的に担当の職員を決め、日頃から深く接することで、表情や仕草から思いをくみ取るように努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人様の生活歴や生活環境、サービス利用経過を把握しながら職員間で情報共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	1人ひとり一日の過ごし方の中でいつもと違う様子、状況があれば職員と看護師との情報交換やケース記録などの確認を行い情報交換し現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンスでケアプランの見直しや課題を職員同士で意見交換しながら検討し、また本人様や家族様の意見やアイデアを反映させケアプランを作成している。	介護計画は、基本的に6ヶ月に一度見直しを行っているが、利用者の状態に応じて短期的にも検討している。見直した計画は、家族の方にも来所時や電話、郵送などで丁寧に伝えている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者様の一日の様子をケース記録に記入し、様子の変化や気が付いた事があれば申し送りノートに記入し職員間で情報共有しながら実践やケアプランの見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	1人ひとりの様々な状況やニーズに対応できるべく、柔軟なサービスの多機能化を目指しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	警察・消防署・SOSネットワークへの連絡ができるよう連携をとっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に利用者様や家族様の希望を確認後、かかりつけ医師の受診又は往診を受けられるよう支援し、受診が困難な状況によっては家族様と職員協力のもと送迎等の支援を行っている。また、一ヶ月に一度本人様、家族様の希望にて歯科医院による口腔検	協力医に1ヵ月に2度往診をしてもらっている。かかりつけ医の受診を希望される方には、送迎など、できる支援を行っている。歯科医の往診もあり、口腔チェックや治療等も行われ、状態や希望に沿った受診支援が行われている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者様の状況、状態を確認しながら常に看護職への情報伝達、相談を行い再検や適切な処置対応、受診を受けられるよう支援しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には利用者様の情報提供書を基に情報交換し、入院後経過の様子など定期的に報告を行っている。また病院相談員と家族様と治療の方向性の共有を図っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に重度化した場合や終末期の方針について説明し、出来るだけ本人様家族様の意向を尊重している。日中居室で過ごされる利用者様への巡視と夜間は一時間に一回巡視を行っている。	看取りは行っていないが、協力医と連携を取りながら、施設としてできるぎりぎりのケアが行われている。夜間の巡視チェック表を作成し、利用者の様態を細かく見守っている。緊急時の対応についても、入所時に本人や家族に伝え、同意を得ている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急対応のマニュアルや救急連絡シートを用意し、定期的に研修や訓練を行い急変時の対応について意識づけている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に避難訓練を行っている。利用者様と地域の防災避難訓練に参加し、地域の方と一緒に避難の仕方、安否確認などを行っている。	基本的には年2回の避難訓練を行っているが、今年度は漏電火災を想定したものの1回のみで、2回目を3月に予定されている。地域の避難訓練にも、利用者と一緒に参加している。備蓄も少しずつ進めている。	災害時、特に夜間などは、職員だけで対応するには限界があります。施設内部の状況を把握してもらうためにも、地域の方々へ避難訓練に参加してもらうように働きかけることが大切だと思います。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとり利用者様を尊重し尊厳を損なうことの無いよう、居室のドアは開けっ放しにしない、トイレの際はカーテンを閉めるなど日々の言葉づかいや声掛けも職員間で注意している。	カンファレンス時に、職員それぞれが自分を振り返ることができるようなアンケートを取り、無意識に言葉遣いが強くなったりしていないかお互いにチェックし合っている。虐待防止委員会も立ち上げ、意識づけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様の意向や希望をくみ取り、自己決定できるよう声掛けなどを工夫しながら支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様一人ひとりのペースに合わせて職員も利用者様の生活スタイルを尊重し希望にそって支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者様の希望や季節に合った身だしなみができるように、またおしゃれを楽しめるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様も役割を持ちながら昼食のメニュー書き、テーブル拭き、おしぼりの準備などをを行ったり、利用者の誕生日メニューをお聞きして一緒に考えたり、また月行事には旬の食材を多く取り入れ、楽しみに繋がるよう取り組んでいる。	一週間のメニューを、旬の食材や利用者の希望に沿いながら調理スタッフが考えている。食器や箸をそれぞれ使い慣れたものにする事で、安心して楽しみながら食事をしていただけるように配慮している。評価当日も、心のこもった手作り料理をいただくことができた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの食事量水分量を記録し主治医の指示のもと、職員間で把握できるようにしている。また、利用者様の嚥下状態に合わせて水分にとろみをつけたり状態に合わせた食事形態で提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人ひとりに合わせた口腔ケアを毎食後行い、ご自分で歯磨きをされる際は職員と一緒に確認しながら行っている。また月一回の歯科往診もあり歯科衛生士の指導や説明など個々の状態を把握できるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個人の排泄状況を確認しながら声掛けを行い、失敗やパット交換を減らすよう取り組んでいる。自立歩行不安定な利用者様は夜間居室ポータブルトイレの設置も検討している。出来るだけトイレでの排泄を促し、ズボンの上げ下げ等自立に向けた支援を行っている	職員は、一人ひとりの排泄リズムを把握し、自立に向けた支援が行われている。トイレに行く回数の少ない方へも、声かけの工夫を工夫し、衛生的に、快適に過ごせるように努められている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個人の記録にて排便状況を把握し、排便コントロールや水分摂取の声掛け、毎朝のヨーグルトや食物繊維を取り入れた献立など工夫している。また洗濯物片付け等の声掛けを行い、居室まで歩行を促すよう支援をしている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	利用者様の希望を基に入浴の案内を行っている。また、柚湯等入浴しながら季節を感じて頂けるよう工夫し、入浴を楽しんで頂いている。	基本的に入浴は週に2回、午前中としているが、希望があればできるだけ浴うように努めている。入浴を嫌がる人にも、無理強いすることなく、トイレに誘いながら自然に誘導している。同性介助にも対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	希望があれば居室で午睡していただいたり、季節に応じた温度管理を心がけ、快適に休息できるようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの処方箋の確認を行い把握するよう努めている。また症状の変化等があれば医師の指示のもと服薬を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの生活歴を尊重し、自分の衣類は畳んで頂いたりと能力に応じた活動を行い、負担にならないよう配慮しながら支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	天候を見ながら玄関先などで日光浴したり、駅や海岸の方へ散歩に出かけたりしている。また、月行事で花見や紅葉狩りなどにも出かけている。	暖かい季節には、可能な利用者全員が玄関先に座り、日光浴やシャボン玉を楽しむなどしながら、地域の方との交流も深めている。コロナ禍の中でも、お弁当を取るなどして、施設内でも外出気分を味わっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者様の状態や希望に合わせて支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者様の希望があれば電話していただいたり、手紙のやり取りも行っていたりしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居心地の良い共有空間を目指し少しずつ改善を続けている。また利用者様と一緒に季節の飾りを作ったり行事の様子などを展示し生活感や季節感を取り入れ心地よい空間作りが出来ている。	日中利用者が集まるリビングは、キッチンもあり決して広くないが、常に職員との楽しそうな会話が聞こえ、誰もが居心地良さそうに過ごされているのがうかがえた。玄関や壁には、利用者の写真や作品が飾られ、また「笑」の文字があちこちに貼られ、思わず笑顔になるような工夫がされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う方が一緒にソファーに座って話したり、ゆっくりテレビを観たりと思い思い安心して過ごせるようにしています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者様の希望や状況に合わせて家族様と相談しながら馴染みの物や写真を居室に置いたり、誕生日の色紙やプレゼントを飾ったり使い慣れたものは使っていただき居心地よく過ごせるようにしている。	居室はどこも整理整頓され、清潔に保たれている。使い慣れたタンスやテレビを持ち込むなど、それぞれの好みに合った部屋作りがされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者様の能力や状況に応じてトイレの案内表示や居室札をしたり、歩行する場所には物をおかない等、個々に合わせた安全な環境づくりに取り組んでいる。		